

昭和48年度総会

今年度総会で見おさめの

母校講堂兼体育館に集まろう!!

日時 5月27日 <日>
PM 1~5時
場所 井草高校講堂

会費形式	100円	スタンダードパーティ式
		コーラ・ビール
	その他	バシド演奏



発行 昭和48年5月1日
第14号

なりましたのでお間違えのない様ご注意下さい。

今回

はお天気が不順で、暖かかつたり寒かつたりで大変だつたろうと思ひます。最近になって、やつと順調に暖かい日が続いています。

さて、最初に同窓会総会の日程が変更になったことをお知らせします。例年ですと五月の第三日曜日と決っていましたが、今年は第四日曜日、五月二十七日と

総会への御招待

思い出の中に、新しい発見を今
皆さんいかがお過しでしょうか

五月二十七日を楽しい一日にしましょ
う。
役員・幹事一同
く為に、十分準備してお待ちしております。

役員・幹事一同

総会におもう

会長築山俊一

井草が高校になり二十五回目の卒業生の皆さんおめでとうございます。今後はひとつ同窓生という立場にたって井草の後輩達の面倒をみてあげて下さい。

的に同窓会の総会がうかんできます。月

日の流れは早いもので私も今年で卒業後十三回目の総会を迎えるとしています。卒業したての頃、同窓会の幹事の人達はほとんど女性で、私など新米はせつせと講堂の椅子運びをやつたのを覚えています。その頃の会場は講堂だけで、総会のあと御菓子を食べながらのんびりとおしゃべりをしたり、中庭でフォーラムスをしたり、運動場ではソフトボーリングやサッカーを楽しんでいる人もいました。参加人数も百人前後と少なかつたようですが、しかし今と比べると先生方がかなり多く積極的に参加して下さいました。

その後、総会終了後のパーティーは分割制になり、視聴覚教室を使用したり、一般教室を使うようになりました。ムードィーなワインコーナーや喫茶コーナー、生演奏のゴーゴーコーナー、同期会のコーナーなどいろいろ趣向をこらすようになります。この案を最初に計画したのは現副会長の新井雅晴君が学生の時代でした。ただし、この方式も五六年続き最近では少しマンネリではないかと思われます。それに出席される人も三百名程度に定着し、新卒の方々はかなり多いのですが、卒業後二年以上の方になると指數関数的に減少しているのが現状です。このへんに総会のあり方にに対する悩みがあり、以後いかにすべきかといつも知恵を絞っているのですがなかなか名案が出て来ません。皆さん方の中で総会開催に対し何か良いアイデアがありましたら、どうぞどしどし幹事まで提案していただきたいと思います。

新校長挨拶



新校長

桃原 良治

校庭の銀杏も新芽をふき、校門の八重桜も咲き揃う好季節になりました。会員の皆さまにはおかわりなくお過しのこととおよろこび申し上げます。

去る四月、飛岡前校長は幾多のご業績を残して、都立南多摩高校（八王子・旧府立第四高女）にご栄転になりました。私はその後任として、同校から参りました桃原良治でございます。紙上をおかりしまして校長異動のご報告を申し上げますとともに、これまで同様よろしくお願ひ致します。



飛岡 正治

私はこの四月都立南多摩高校長は転補されました。南多摩は六十余年の歴史を持つ多摩地区の女子の名門校として知られた高校です。

四十四年四月井草高校長として着任して今まで四年間大過なく勤めることができましたのも同窓会の側面からのご助賛物と厚くお礼申上げます。

この間二回にわたる鉄筋校舎の改築・プールの新設・グランドの改修など施設面では格段の向上をみました。今年度の体育館の改築の完成をみないで去るのは残念です。

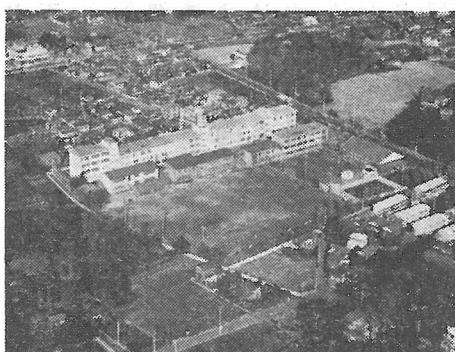
学力や生活指導面でもよい評価を得て大学への進学状況も立派なものと言える段階まできました。自由な空気の流れた井草高校の今後の躍進を祈って止みません。井草の力が十分でつくまでにご指導下さいますことを新進氣鋭の桃原校長にお願いして想い出多い井草高校を去つ終りに、私たち教職員一同は、皆さまの母校井草高校を、さらに立派な学校に

育てていくことを念願しています。そして学校は会員の皆さまに対し、いつまでも「心のふるさと」でありたいと願っています。何かにつけて母校をお訪ね下さいますよう、また、元気で純心な在校生たちを、時として励まして下さいますようお願いいたします。

井草高校を去るにあたつて

変わった井草、変わらない井草

十九回卒 柳 年 生



左の写真は、今年の一月航空写真で撮った井草高校の全景です。新しい人には見慣れた風景でも、昔の卒業生である我々には、大分変わったなという感じです

北側の一番大きな建物が一部四階建の特別教室と、普通教室で殆んどの授業がこれらの教室で行なわれます。右側道路沿いの建物が今年中に取壊され、鉄筋の体育馆兼講堂になる古い体育馆です。その手前、もとのバレーコートの位置には、新しいプールが作られ、手前三角形の地所が地主に戻される等して、運動場が大

分狭くなっている。さて、入れ物は大分変わったが、入る物の方は、第一に制服が廃止されているので時々井草に行つて十人も出てくる様になつたら、恐ろしくて井草に行けなくなる様な気がするけれど、そんなことは絶対にないだろうしあつてはいけないことなのだと思います。

井草祭も、相変わらず一週間近くかけて楽しみ、男の子と女の子も非常に仲が良くなり、クラブ活動も何が活発で、何が活発でないのか判らないがとにかく一生懸命にやつていて。

特に最近の野球部が、正式部員の内人が故障して没収試合になり泣く泣く退出したという様な、井草ならではの青春時代の素晴らしい思い出をみんながそれぞれ胸に刻んで卒業していく。

変わつても、変わらぬ井草だな

もどちらが在校生か、どちらが先生か判らないという次第。更に中に入れば、学校の掲示板には、「もう五分早く起きよう」「総務会(生徒会)に皆んな立候補しよう」のポスターが目につく、昔のまま。

変わらないナア。

井草高P.T.A紙「井草」12号に、受験の高校ランキング、都で14か15位、全国で41位(旺文社)で、90%位上が進学だ

そうだが、サンデー毎日によると、東大への進学者は一人とか、やっぱりその程度でしよう。

井草から東大への進学者が、十人も二十人も出てくる様になつたら、恐ろしくて井草に行けなくなる様な気がするけれど、そんなことは絶対にないだろうしあつてはいけないことなのだと思います。

井草祭も、相変わらず一週間近くかけて楽しめ、男の子と女の子も非常に仲が良くなり、クラブ活動も何が活発で、何が活発でないのか判らないがとにかく一生懸命にやつていて。

特に最近の野球部が、正式部員の内人が故障して没収試合になり泣く泣く退出したという様な、井草ならではの青春時代の素晴らしい思い出をみんながそれぞれ胸に刻んで卒業していく。

48年度行事予定

今年度は、予想に反して新入幹事諸氏がはりきっていますので、活発な井草会が期待出来ます。主な行事予定に、次のようなものを組んでいます。

- ① 総会（五月二十七日）スタンダードパーティー
- ② 同窓生文集の発行（会費の集まり方次第）
- ③ ダンスパーティー（十二月中）
- ④ 夏か冬に湯の丸同窓生親睦会
- ⑤ 同期会

夏の湯の丸親睦会

井草校同窓会ツーテ

「幹事になつた挨拶」と言われても、困るのです。『井草会』という集いが存在する事すら今回初めて知つたくらいな

昭和47年度決算及び 48年度予算案

4月1日の第1回幹事会で以下の様に決算・予算が承認されましたので報告致します。（会計）

	47年度決算	48年度予算
収 入	1,507,370	627,367
支 出	1,490,003	510,000
繰越金（積立金）	17,367	117,367

○収入内訳

新入会員会費	428,000	429,000
前年度繰越金	375,636	17,367
会費及び名簿代	662,000	150,000
振替収入		
名簿代現金収入	18,200	
総会会費	12,450	13,000
雑収入	11,584	18,000
計	1,507,370	627,367

○支出内訳

総会・会報準備	74,436	80,000
会報印刷	142,300	150,000
発送	134,060	150,000
役員会・幹事会	15,985	40,000
名簿委員会	1,123,222	50,000
同期会		20,000
行事		20,000
計	1,490,003	510,000

以上は、5月27日の総会の承認で成立致します。



のですから。でも、私みたいな人は多かったのではないか？そもそも高校時代に於いてさえ、同学年の人達すべてを知っていた訳ではなかつたのです。ですから卒業まぎわになつて急に「同窓会」の話を聞いて、キヨトンとしてしまふのも無理ありませんよね。私がまさにそうでした。しかも知らないうちに幹事にさせられていたのですから……しかしボヤいていても、仕方無いのです。私はともかく幹事会に出席しました（そのおかげで、このような重労働をさせられる身になつた訳ですが、まあグチはやめましょう。）

私にとって、一番の疑問は、「井草会とはいったい何をする所なのだろう」という事でした。ところが、話を聞いてみると、主な活動は、一年に一回井草に集まり、飲んだり話したりするだけ、というものです。しかも先輩方はとっても気楽にやっている様子。

どうなのです。同窓会なんて、義務だと考えたらもうおしまい。何となく顔だけの奴らに囲まれて、くだらない事をしゃべる気楽な会なんです。まず自分が楽しむくては……。

私はより前に卒業なさつた先輩の方々はもちろん、私と共に今度井草会に入会したみなさん、ぜひ五月二十七日来てくださいね／六十才くらいになつたつもりで「高校時代の思い出話」に花咲かせましょう。現状を報告し合いましょう。

何だか「挨拶」が井草総会の宣伝になつてしまつたけれど、どうも無責任な私は、「新しく幹事になりました。全力をつくしてがんばりますので、どうぞよろしくお願いします」などと言えないのでは、悪しからず。

では、五月二十七日に井草高校でお会いしましょう。

二十九回 宮沢
三十回 小野田照子（十四回）
三十一回 中村 清子（十七回）
三十二回 会計監査
三十三回 副会長新井 雅晴（十三回・三十二才）
三十四回 宍戸 文男（十九回・二十四才）
三十五回 宮沢 寿美子（二回・十八才）
三十六回 西田 実（十七回・二十六才）
三十七回 会計 新田 秀夫（二回・二十二才）
三十八回 飯田 美知子（二回・十八才）
三十九回 弓野 雄一（二回・十八才）

新役員候補

井草会則により、前年度までの役員が承認をもつて正式役員となります。規定期によって、四八年四月一日の第一回幹事会で右の新役員十名が推挙されましたので公示します。

この新役員は、五月二十七日の総会承認をもつて正式役員となります。規定期によって、四八年四月一日の第一回幹事会で右の新役員十名が推挙されましたので公示します。

井草会則により、前年度までの役員が承認をもつて正式役員となります。規定期によって、四八年四月一日の第一回幹事会で右の新役員十名が推挙されましたので公示します。

青山先生特集

昭和十六年府立第十八高女として井草高校が誕生して以来、井草創建時代・戦中・戦後・男女共学時代・受験戦争時代と、二十八才の青年時代から現在の男盛

りまで三十数年間、井草と共に歩んで来られた「ロクさん」と青山兵吉先生が今年の三月限りで退職されました。

今会報では、同窓会・同窓生がお世話をした青山先生の特集を組みました。

青山兵吉の人生劇場やいかに……

井草を辞す

青山 兵吉



美という人の心にかかることで、長いこと井草にすごせたのは、幸だった。井草校創立の昭和十六年二十八才から六十才迄の三十二年間。

井草に集つてくる人達。井草でする仕事。井草の校舎のある所を井草の辺。みんな私の大好きなもの。そこで起り、消えていった数々のことが、大切な私のお生であつた。

大変長かったようでもあるが、長い生たから充分満足した想いがあるというの

ではなくて、まだまだここに居たいといふ気持が強い。教育は先輩が後輩を高みに導く事なのだとすれば、導くこと一つである美を、私はこれまでにわかつて居たのか。関連のある訓練もしたし、日展に出品して或る事を確かめてみたが、どうしても暗中模索の部分が多い。従つて授業も一面的な信念で押して行くだけで、とんだ間違いを重ねて居るおそれもある。望ましい方向を軽んじて、ましまらない方向に力んでみたり。良い仕事をして居る生徒を、改めさせたり。望

かも知れないと思われた。其の後、やめたくないままに心の隅におしやつて過したり、丁度その折六十才になつた事もあって踏切ることになった。

私の青山先生

高校一回 隆野 豊子

春暁の日。校門の近くの桃の花が見事に咲きそろつて居た。周囲の灰色の中でそこだけが一段とまぶしく生き生きしていだ。それをみながら私は、初めて学校をたずねた日のことを考えて居た。井草に就職がきまた二月のことで、冬枯れた旧市街から出て来た目に、麦畠の濃い緑

がうねをなして幾重にも続いていたのは

道にそつて等間隔に植えられた桜は補助棒に支えられてまだ蕾ももたない若木でありました。お弁当の時間だというのに隣りの教室の扉は閉ざされたままで先生の声だけが洩れて聞こえます。小学校で一緒に友人を廊下で待つ中にお休みは終つてしましました。昭和十

八年春その教室一年三組の担任の先生は青山兵吉先生で美術担当のとても話の長

品に、何ともいえない良いところが見え居た。無駄があつたが、そうでない所も確かにあつた。全部の生徒ではなくとも、何か少しでも感じてくれた生徒があつた筈だ。その僅かだけでも許してもらえたのではないか。その僅かだけでも私は何かをなし得たのだ。

不満足と満足の三十二年を自ら締めくつて絵の仕事に専念しようと考えたのは、その満足と不満足の想いの故であつた。美へのより確かな手応えが欲しからなかったのだ。勿論、先人の立派さには、及ぶ筈もないだろうが。私は、私なりに行けるところ迄は行つてみたい。その時

間をつくるのが今の私には大切な事だと思われた。それは去年の春の頃に、体調が不順で困つて居る折に考えた事も、大きく影響して居るようだ。今後何かたつてから退職したのでは、体力が衰えて、朝から晩まで絵を描き続けるには不適当な状態に落ちこんでしまつて居るかも知れないと思われた。それでも暗中模索の部分が多い。従つて授業も一面的な信念で押して行くだけで、とんだ間違いを重ねて居るおそれもある。望ましい方向を軽んじて、ましまらない方向に力んでみたり。良い仕事をして居る生徒を、改めさせたり。望

かも知れないと思われた。其の後、やめたくないままに心の隅におしやつて過したり、丁度その折六十才になつた事もあって踏切ることになった。

学校をやめることに決つてからの或る

道にそつて等間隔に植えられた桜は補助棒に支えられてまだ蕾ももたない若木でありました。お弁当の時間だというのに隣りの教室の扉は閉ざされたままで先生の声だけが洩れて聞こえます。小学校で一緒に友人を廊下で待つ中にお休みは終つてしましました。昭和十一年春その教室一年三組の担任の先生は

い先生であることを印象づけられました。縁あつて翌二年の組替えで先生の級になり折にふれて先生のお話をうかがうこととなり学問・真実・人生・目的・努力等々の熟語が黒板に大きく濶達にチョークで書かれたことを思い出します。美術の時間はデッサンの基本を毎時間同じように繰返しお説きになるものですから茶目気の多い友人は先生のおいでになる前に一講義。身ぶり手ぶり口調を真似て色、調子、明暗と黒板によろしく書いては絵の上手な人の机まで行って、「うんこは絵の美だなあ」と少々詫のある言葉で感嘆調にいいます。みんなが大笑いしていれるその渦中に本物の先生がひょっこり姿を現わして大変だったことがありました。(渾名のロクサンはこの頃につけたのではないでしょうか。意味は大したことはなく都電の停留所に青山六丁目があつて六さんになったと思うのです。)しかし美術の時間はその表現の追求に幾日も幾時間もかけ一枚の画用紙にいづい分取組んだものでした。告詰・鞆・幾何模様図案、井草周辺の写生等。

ある朝早く登校したら教室に先生の自画像が制作中の状態でありました。生徒の登校前に先生がご自分の勉強をなさつていたのでした。絵は油絵で先生そつくりで感心してしまいました。翌朝またのしみにして行きましたら殆ど無残に白くぬり潰されていてひどくがっかりしたことを見ています。

私は卒業して青山美術から遠くなりましたが毎年、春の光風展、秋の日展、そ

して折々のグループ展で先生の絵に接しますと二十数年前に私共にお話してくださいになつても絵画と共に青山先生がいること自身の厳しい歳月のご精進がうかがわれて頭がいつしかさがつてしまいます。そして先生がおかきになる櫻や薺草屋根が私共にひなたっぽく、土の臭のむかしさながらの井草を呼び戻してくださいります。近年は外国へ行かなくても素晴しい名画が次々と見られるようになり嬉しい限りです。名画を見てまわる中に井草の頃先生がセザンヌやモネ等を情熱

に私の思い出の中に生きつづけることと思います。先生長い間ありがとうございます。どうぞいつまでも情熱を絶やすことなくいい絵を書きつづけてください。お祈りいたします。

青山先生はこんな先生です。あなたのロクサンは如何でしょう。先生が井草を去られても井草と青山先生は離れず私共の思い出の中に生きつづけることだと思います。先生長い間ありがとうございました。どうぞいつまでも情熱を絶やすことなくいい絵を書きつづけてください。お祈りいたします。

商業主義に毒されることなく、いつまでもお元気で私達の先生として、あのやわらかなタッチで武蔵野を描き続けて欲しいと願つて居ります。

ピクニック

井草と青山先生

N・T生

どこの学校でも創立以来とか、二十数年の古強者といった先生が、必ず二人や三人はいらっしゃる。青山先生も井草にとっては創立以来の最古参の先生で、いつも同窓会に伺えばお会いできるという安心感を抱いて居りました。

その先生から突如この三月「よい仕事(絵を描く事)」を残すために、学校を今限りでやめようと決めました。」とのお電話を頂いた時は、今まで井草と青山先生を切り離して考へてもみなかつた私にとって、一瞬信じ難いとまどいを感じました。

青山先生は最古参などと書かしては頂きましたが、私がはじめて井草に通うようになります終戦直後から今日に至るまで、いつお会いしても全く変わらない風

貌と態度に、私はいつもあの生徒であつた頃の気持ちから脱れないで過してまいりました。髪の毛はまだ黒々としていつも前向きの真摯な姿で、新しい事も古いものも、なにごともなかつたようにならざれてお話しくださるのを、心から敬服してただただ感心して居りました。長い井草での生活の間には、御榮転の機会も何回かおありだつたようですが、武蔵野の風景を愛された先生にとって、井草は去り難い環境であつたことと思ひます。展覧会で拝見する先生のお作には私達が通学して居りました頃の古き良き時代のそのままが描かれ、一入懐かしさが蘇えつてまいります。

いま、井草を去られ芸術の道一筋に進んで行かれる先生。いつまでも井草にいらして欲しいと願つては居りましたが、これから的人生に先生の良い作品が世に出で形あるものとして残つてゆくこともまた意義あることと思います。世をあげて絵画ブーム等と言われて居りますが、



第1回高女会（同期会）

終身会費制について

四十四・四十五年度、四十六・四十七年度分の会費徴収に御協力を頂き有難うございました。その際にかなり多数の方から「毎年会費を支払うのでは手数がかかるので、終身会費制を採用しては」という様な意見が、希望調査、振替用紙に見られました。

我々、井草会幹事会でも数年前からこの問題について考えて来ましたが、なかなか結論が出ず今日に致りました。

終身会費制にした場合、問題になるのは、金額をいくらにするか、最初の年度

は良いが二、三年後には、会費が激減して会の運営が円滑にいかなくなるのではという二つの大きな問題でつまづいてきました。しかし、会員の方々の支払い手

数及び事務処理の繁雑さの解決の為もに

何らかの形で終身会費制を採用しようと

いう動きが強くなりました。

例えば、卒業十年以後の人は終身会費

制にする。又は、終身会費制と年次会費制の二本立てとし自由選択にする。更に同窓会に支払う会費を、ある一定の金額に定め、一時払い、分割払い（年次会費として支払うも可）によってその金額まで支払う。等々の方法が考えられる。

幹事会では、今年度中にこれに結論を下し来年度の総会において規約改正案と共に発表したいと考えている。

特に、終身会費制に対する意見、賛成

の場合には、いくら位が望ましいか等のアンケートが振替用紙に印刷されておりますので御回答を全員の皆様から頂きたくと思います。

御協力を願い致します。

住所・勤務先の移動のときは幹事又は学校までご連絡下さい。

同窓会文集へ

寄稿のお願い

今年度の行事予定の一つに、同窓生による同窓生の為の同窓生の文集を発行しようという考え方があります。

今まで会報には時々同窓生の作品が発表されたことはありますがあつたが一部の方のものでした。

井草も創立以来すでに三十数年、一万円です。御入用の方は、同封の振替用紙に加えてお送り下さい。

名簿に残部が多少あります。一冊五〇〇円です。御入用の方は、同封の振替用紙に加えてお送り下さい。

(◎)



右の写真は、第一回高女会を番町共済会館で行なった際の記念写真です。その後も、他の同期の人々の同期会が何度も開催されていますが、今年度は更に多くの同期会の開催を望んでいます。御希望の方は、どしどし御申し出下さい。一人でも、グループでも。

各種手続き、連絡、会場の相談、会の進行等色々お世話を致します。

連絡先は、井草高校内井草会又は、直接会長宛にお知らせ下さい。

その井草で同窓生の皆様の交歓の場として、文集を発行致します。

世界中で活躍している、主婦の方、社長さん、平サラリーマン、お医者さん、運転手さん、先生、学生さん、浪人諸君

そんな皆んな、みんなで作る文集です。

男女年令制限なし、資格必要なし、内

容題材自由。詩・小説・書評・研究発表

・随筆・論文・ボルノ・マンガなんでも結構。

今年の夏から準備に入り、来年度の総会前後に発行したいと思います（但し、会費の集まり具合による）ので、どしど

し寄稿して下さい。

投稿先は、各クラス幹事又は役員へ又

こちらから直接お願いする場合もありますので、その節は宜しくお願い致します。

